

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Large congenital melanocytic nevi, risk of cutaneous melanoma, and prophylactic surgery	
	論文の日本語タイトル	大型先天性色素細胞母斑、皮膚メラノーマ発生リスク、ならびに予防的外科的切除	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (I)	
	Pubmed ID	000000000	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	54	
	号	5	
	ページ	868-870	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2006 May	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Marghoob AA	Dermatology Service, Dept. of Med, Memorial Sloan-Kettering Cancer Center
その他著者 1		Agero ALC	同上
その他著者 2		Benvenuto-Andrade C-	同上
その他著者 3		Dusza SW	同上
その他著者 4			
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			

レビュー研究の6項目	目的	大型先天性色素細胞母斑(LCMN)におけるメラノーマ発生リスクを文献的に検索し、予防的切除の意義について考察する
	データソース	これまでに報告された後ろ向き症例解析のうち、患者数の多いもの4件を取り上げた。計 954 例の LCMN 患者が対象となった。
	研究の選択	手術しないで経過観察した群と部分的あるいは完全切除を行った群におけるメラノーマ発生率を比較検討
	データ抽出	著者の文献検索。
	主な結果	1) Bett が 2005 年に J Am Acad Dermatol 誌に LCMN がメラノーマを生じるリスクは低いから、その予防的切除は有用でない、と報告したが、この結論には意義がある。彼女の論文では LCMN の 2.9% にメラノーマが生じていた。40 歳以下の米国白人のメラノーマ発生リスクは 0.6% であるので、5 倍のリスクがあるといえる。 2) 上記基準で集積した 954 例の LCMN については、切除なしで経過観察した 304 例中 23 例(7.5%)にメラノーマが生じ、部分的あるいは完全切除した 650 例では 4 例(0.6%)にメラノーマが生じた。Bett の症例でもメラノーマ発生は経過観察群 13/132、切除群 3/497 と、前者で有意に多かった。
	結論	LCMN の外科的切除はメラノーマ発生の予防に効果があるといえる。全身麻酔のリスクを考慮しても、幼児期の切除が勧められる。ただし、完全切除は難しいことが多いから、切除してもリスクは残る可能性はある。ただし、LCMN でもメラノーマを生じない症例も多いことも考慮し、最終的には患者・家族の考え方に従うことになる。
レビューワーコメント	備考	
	レビューワー氏名	斎田俊明
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (I) 大型の先天性色素細胞母斑がメラノーマを生じるリスクを慎重に評価たうえで、高リスクではないが、通常人よりはリスクが高いことは確かだから、予防的に可能な限り切除するという選択肢を考慮すべきだと主張している。